

□■受験対策ミニ講座 11号 2019□■

師走はもうすぐそこですが、焦ることなく時間を有効に使って、自分のペースで実力をつけていきましょう。まだまだ伸びしろは、あるはず！本番までは、まだ2ヶ月たっぷりあります！！

【28回 57 障害者に対する支援と障害者自立支援制度】

事例を読んで、国際生活機能分類 ICF の「参加制約」に該当するものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

事例（要約）：脳性麻痺で車いすを利用している E さん（49 歳）は、障害者支援施設を退所している。支援の調整が間に合わないため一人で買い物に出かけたが、店の階段の前で動けずにいる。

- 1 脳性麻痺で足が不自由なこと
- 2 階段があること
- 3 支援なしで外出できること
- 4 店で買物ができないこと
- 5 障害者支援施設を退所したこと

正解と解説は最後に記載しています。

■Plus Column

【言葉の意味から世界をのぞく】

引き続き、横文字が苦手な人も知っておいた方がいい言葉の話。今回は ICD をご紹介しましたが、実は国際疾病分類には長い歴史があります。植民地時代の欧米列強が知りたかったのは、兵士たちが持ち帰ってくる風土病や伝染病、各地の死因統計、そして薬草などの情報でした。そのためには国際共通語としての疾病分類が、どうしても必要だったので

す。
第二次大戦が終わり国際連合が国際障害者年を提案しました。そこで国連機関である WHO が、1980 年、ICD の補助分類として発表したのが ICIDH (International Classification of Impairments, Disabilities and Handicaps) です。「国際障害分類」と通称されていますが、正確には「機能障害・能力障害・社会的不利の国際分類」...アルファベットの頭字語の通りの内容ですから、ここは横文字を理解しておきたいところです。

国際的な障害分類が発表されたことは画期的なこととして話題になりましたが、障害当事者たちから「ICIDH は医学モデルだ」との批判が起きました。ICD の補助分類ですから、医学モデルであるのはある意味、当然のことなのですが、「完全参加と平等」を掲げる国際障害者年にはふさわしくないという意見が強く出されたのです。

そして議論の末、2001 年に発表されたのが、今回の過去問の ICF 国際生活機能分類 (International Classification of Functioning, Disability and Health : 生活機能・障害・健康の国際分類) です。その特徴は、健康と健康関連領域に関して疾病以外の面から把握するための概念と分類コードという点にあります。ICF は現在、各国の福祉政策、福祉計画の基本的な考え方となっています。

ちょっと面倒な横文字たちですが、この3つは人体、心理、現代社会、障害の科目に渡る頻出項目なので、内容をしっかり理解しておきましょう。

もう一つ、頻出項目の疾病に関する頭字語、DSM (Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders) は、アメリカ精神医学会の「精神疾患診断・統計マニュアル」。こちらは精神疾患だけの診断基準で、現在、5 版の DSM-5 が世界で広く使われています。

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686

【28回 57：解説と正解】

- 1× ICF における「機能障害（構造障害を含む）」に該当します。
- 2× ICF における「環境因子」に該当します。

3× ICF における「活動と参加」に該当します。

4○ ICF における「参加制約」の定義、「個人がなんらかの生活・人生場面にかかわる時に経験する難しさ」に該当します。

5× ICF における「個人因子」に該当します。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus